稲田 尚子

1. 授業の概要(ねらい)

応用行動分析学、臨床発達心理学に基づく実証研究に関する文献を購読し、興味関心がある研究の追試をグループで実施することにより、臨床発達心理学、応用行動分析学の研究を体験する。具体的には、学校、恋愛、体重、安全など、生活の中のあらゆる行動のマネジメントに関する文献を取り扱う。自閉スペクトラム症や注意欠如・多動性障害などの発達障害の行動変容に関する文献も取り扱う。文献から必要な情報を読み取り実験を計画して実施すること、さらに得られたデータを解釈するための文献の利用などについても学ぶ。

2. 授業の到達目標

- 1. 論理的思考に基づき、相手に伝わるプレゼンテーションができる。
- 2. 多様な人々と良好な関係を築くためのコミュニケーションスキルを活用できる。
- 3. 実社会におけるこころの問題を解決するために、様々な分野・立場の人と協働することができる。
- 4.心理学的課題に対し、自分の意見をもち主張できる。
- 5.グループで協力して、心理学的課題に取り組むことができる。
- 3. 成績評価の方法および基準

授業中のディスカッション(40%)、プレゼンテーション(30%)、最終レポート(30%)

4. 教科書·参考文献

参考文献

三浦 麻子(監修)佐藤 寛(著) なるほど! 心理学観察法(心理学ベーシック第4巻) 北大路書房

5. 準備学修の内容

研究の準備のために文献の内容をしっかりと読み込んでおくこと。 研究の準備は授業時間外に行う必要がある。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

【第1回】 ガイダンス・授業の進め方についての説明・研究の追試と再現性

実験を行う文献の決定・グループ分け

【第2回】 文献を読み込み研究計画を立てる(1)

【第3回】 文献を読み込み研究計画を立てる(2)

【第4回】 文献と研究計画の発表

【第5回】 調査·実験の準備(1)

【第6回】 調査・実験の準備(2)

【第7回】 調査・実験の実施(1)

【第8回】 調査・実験の実施(2)

【第9回】 データの分析(1)

【第10回】 データの分析(2)

【第11回】 結果をレポートにまとめる(オンライン)

【第12回】 考察

【第13回】 研究結果の発表会(1)

【第14回】 研究結果の発表会(2)

【第15回】 次の研究につなげるための文献研究について